

## 第7 第59回愛媛県小中学校長会研究大会松山大会開催要項

- 1 大会主題 未来を切り拓き よりよい社会を創る  
人間性豊かな児童生徒を育てる学校教育の推進
- 2 主 催 愛媛県小中学校長会
- 3 後 援 愛媛県教育委員会 愛媛県市町教育委員会連合会 松山市教育委員会  
(予定) 公益財団法人愛媛県教育会 公益社団法人日本教育会 愛媛県PTA連合会  
公益財団法人日本教育公務員弘済会

4 期 日 令和5年11月17日(金)

5 開催地 松山市

6 日 程

9:00 9:30 10:10 10:25 11:55 12:05 13:30 16:20 16:30

受付	開会式	休憩	講演	大会趣旨説明 大会宣言決議	昼食・移動 役員打合せ	分科会	閉会行事
----	-----	----	----	------------------	----------------	-----	------

7 講演 演 題 「 (未定) 」  
講 師 (未定)

8 会 場 主 会 場 松山市コミュニティセンターキャメリアホール  
分科会場 松山市コミュニティセンター エスポワール愛媛文教会館  
にぎたつ会館

9 分科会

分科会	研究領域	研 究 課 題
1 (小)	1 学校経営	明確な経営ビジョンの下、校長のリーダーシップが発揮される組織づくりの在り方
2 (小中)		
3 (小中)	2 教育課程	経営ビジョンに基づく「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善
4 (小中)		
5 (小)	3 人材育成	持続可能な社会の創り手を育むための教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の推進
6 (小中)		
7 (小)	4 教育課題	家庭・地域社会・関係機関と連携・協働し、児童生徒の生命と安全を守る対応の在り方
8 (小中)		

## 第 59 回愛媛県小中学校長会研究大会松山大会 研究要項

大会主題 未来を切り拓き よりよい社会を創る 人間性豊かな児童生徒を育てる学校教育の推進

### 1 主題設定の趣旨

現代は、未知の課題に常に対応が求められる知識基盤社会である。グローバル化の進行、デジタルトランスフォーメーション（DX）の急速な進展、人生百年時代、生産年齢人口の減少等により、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代を迎えており、「自立」「協働」「創造」の理念の実現に向けた生涯学習社会を構築することが求められている。その中で、一人一人の日本人が、持続可能な社会の創り手として、多様な人々と協働しながら社会の変化に柔軟に対応し、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。

教育においては、教育基本法や学校教育法等に示されているように多様で変化の激しい社会の中で、社会を生き抜く力を身に付け、主体的・協働的に課題解決に取り組むとともに、未来を切り拓き、よりよい社会を創り出していく人間性豊かな日本人の育成が求められている。学校教育では、「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させ、「確かな学力」や「豊かな心」「健やかな体」の調和が取れた生きる力を確実に育てるとともに、その力を児童生徒が自らの将来に生かせるようにすることが肝要である。教育実践に当たっては、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、各学校の特色に応じたカリキュラム・マネジメントの確立等を推進することにより、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成していくことが求められている。

そこで、愛媛県小中学校長会は、令和元年度第 56 回大会から「未来を切り拓き よりよい社会を創る 人間性豊かな日本人を育てる学校教育の推進」を大会主題に掲げ、四つの研究領域及び研究の視点の下、研究・実践してきた。今後も、学校教育の更なる充実・発展を目指して連携を強化し、組織を挙げて鋭意努力していく決意である。昨年度、本大会主題を掲げて行った教育調査の結果によると、県内の校長は、積極的に教職員とコミュニケーションを図り、教職員が互いに支え合う職場づくりに留意している。さらに、家庭・地域社会・関係諸機関と密に連携・協力しながら教育課題への対応や児童生徒の健全育成に努めている。一方、学校における働き方改革の推進、児童生徒の社会的・職業的な自立を促すキャリア教育などの社会の変化に応じた研修の充実、防災・減災教育の推進については、昨年度と比較して意識の高まりは見えるものの各学校間で進捗状況に差が見られる。教職員が、誇りややりがいを持って、効果的な教育活動を行えるように業務改善を進めるとともに、今日的な課題に即応した校内研修等の充実や、地域の実態に応じた防災体制づくりを一層進める必要がある。

小・中学校では現学習指導要領の下、1人1台端末の導入による授業改善が推進され、学校教育は正に変革の時期を迎えている。校長は、更なる教職員の働き方改革の推進とともに、一連の教育改革の動向を注視しつつ、時代背景や自校の実態を踏まえ、愛媛教育における自らの使命を自覚し、意欲的・創造的な学校経営を行い、信頼される学校づくりに果敢に取り組まなければならない。

愛媛県小中学校長会は、コロナ禍で教育活動の多くが制限され、研究や実践が思うようにできない困難な状況下にあっても、「学びを止めない」との強い信念を持ち、県内各市町・各校の実践を持ち寄り、研究を推進してきた。松山大会においても、大会主題の視座を高め自らの学校経営を省察し、校長のリーダーシップとマネジメント力の発揮における具体的・実践的な在り方について、より明らかにするものとする。

## 2 研究領域と研究の視点

### 【第1研究領域】 学校経営

#### 〈研究課題〉

明確な経営ビジョンの下、校長のリーダーシップが発揮される組織づくりの在り方

#### 〈趣旨〉

様々な課題を抱えている現代社会においては、児童生徒に、自分自身の未来を切り拓き、他者と協働し、よりよい社会を創り出していく力を育てていくことが重要である。そのために校長は、未来を見据えた明確なビジョンに基づく学校経営を創造し、推進していかなければならない。したがって、学校においては、社会全体や教育の現状を的確に把握し、児童生徒に「生きる力」を確実に身に付けさせる教育活動を推進していく必要がある。また、教育活動を充実させながら、各学校の実態に応じて教職員の職場環境を整えることも大切である。そこで、校長として、自らの確固たる教育理念や明確な経営ビジョンを示し、校長のリーダーシップとマネジメント力を発揮して、その実現に向けた組織や体制を構築し、目標を達成していくための方策を共有していくことが不可欠である。また、一連の教育改革の動向を注視しつつ、意欲的・創造的な学校経営を行うことにより、信頼される学校づくりに取り組まなければならない。

#### 〈研究の視点〉

- ① 経営ビジョンに基づいた学校経営
- ② 業務改善と学校における働き方改革の推進
- ③ 学校評価を活用した学校改善
- ④ 同一校種・異校種との連携

### 【第2研究領域】 教育課程

#### 〈研究課題〉

経営ビジョンに基づく「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善

#### 〈趣旨〉

変化が激しく予測が困難な社会では、未来を切り拓き、よりよい社会を創る人間性豊かな日本人の育成が求められている。そのために必要な学校教育の中核となるのが教育課程である。学習指導要領では、目指すべき理念の一つとして「社会に開かれた教育課程」の実現が掲げられている。学校は、よりよい社会を創るという目標を地域社会と共有するとともに、地域社会と連携・協働しながら児童生徒の成長を育てていくことが求められている。そこで、校長として、児童生徒の生きる力を育むために、社会に開かれた教育課程を編成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をはじめ、学校や地域の実態、児童生徒の発達段階や特性等を踏まえたカリキュラム・マネジメントを確立することにより、教育活動の質の向上に取り組まなければならない。

#### 〈研究の視点〉

- ① カリキュラム・マネジメントによる教育活動の質の向上
- ② 人間尊重の精神に基づいた人権・同和教育、特別支援教育の推進
- ③ 豊かな心を育む道徳教育の充実
- ④ 社会的・職業的自立を促すキャリア教育の充実

### 【第3研究領域】 人材育成

#### 〈研究課題〉

持続可能な社会の創り手を育むための教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の推進

#### 〈趣旨〉

大きく変化・変革の時を迎えた現代の社会環境において、学校教育を取り巻くあらゆる課題に迅速かつ適切に、また、柔軟に対応するため、高い専門性や使命感、責任感、教育愛に支えられた総合的な人間力が、教職員に求められている。同時に教職員一人一人がコミュニケーション能力を高め、同僚性や協働性を発揮することによりチーム学校としての組織力を向上させることが不可欠である。さらに、教職員の構成は、各校によって異なり、定年延長を含めて今後も多様化することが予想される。そこで、校長は、教職員の指導力や組織力を高めるため、ミドルリーダーの育成による組織の活性化を図るとともに、目標チャレンジ制度を有効に活用するなど、教職員一人一人の自己肯定感や自己有用感を高めながら参画意識を持たせ、教職員自身が持続可能な社会の創り手となるべく積極的に現職教育に取り組まなければならない。

#### 〈研究の視点〉

- ① キャリアステージに応じた資質・能力の向上
- ② これからの学校運営を担うリーダーの育成
- ③ 社会の変化に応じた指導力を高める研修
- ④ 教職員の意欲を高める目標チャレンジ制度の有効活用

### 【第4研究領域】 教育課題

#### 〈研究課題〉

家庭・地域社会・関係機関と連携・協働し、児童生徒の生命と安全を守る対応の在り方

#### 〈趣旨〉

大規模地震や異常気象による自然災害、交通事故や不審者犯罪、いじめ・不登校、児童虐待や自殺、そしてネット犯罪など、変化の激しい現代社会では、児童生徒を取り巻く環境は一層複雑になり、教育課題は深刻さの度合いを増している。こうした現状において、学校は、安全・安心な教育環境を確保するとともに、安全に関わる知識・技能、思考力・判断力・表現力等を育成する安全教育を充実させていかなければならない。また、事件・事故等の未然防止や適切な対応など、教職員はもとより、児童生徒一人一人の危機対応能力を高めることが求められている。そこで、校長は、「地域とともにある学校」への転換を図り、組織的・計画的に教育活動全般を通じた安全教育や防災・減災教育を地域社会と連携して展開する必要がある。様々な教育課題の解決に向けた取組を強化するとともに、児童生徒一人一人が個性を発揮し、持続可能な社会の創り手となるよう、将来を見据えた生きる力を育む教育実践に取り組まなければならない。

#### 〈研究の視点〉

- ① 家庭・地域社会との連携・協働
- ② 生命を守る安全教育と危機管理
- ③ いじめ・不登校等への積極的な対応
- ④ 防災・減災教育の充実